



東日本大震災復興支援活動

笑顔をお届けするプロジェクト in school library

2017/7~2021/3



主催 笑顔プロジェクト製作委員会



contents

ごあいさつ	1
笑顔を届けるプロジェクト in school library について	2
開催校一覧	3
開催各校 -小学校-	4
開催各校 -中学校・高等学校-	6
開催図書館	22
プロジェクトご案内パンフレット	23
笑顔文庫図書と書架の寄贈並びに感謝状贈呈式	24
書籍セット一覧	26
ご参加いただいた図書館の皆様へ	38
編集後記	40



ごあいさつ

キハラ株式会社
代表取締役 木原 一雄

これまでキハラ株式会社は図書館業界の創造に貢献する製品づくりとともに、さまざまな社会貢献活動をすすめてきました。

2011年3月11日の東日本大震災以降、復興支援活動として、被災地の図書館に直接ブックトラックを届ける「ブックトラック支援」、被災地の学校図書館に図書管理ソフトELISE-Egg3 kizuna版を届ける「学校図書館げんきプロジェクト」、被災地の子どもたちの描いた絵をブックトラックにして地元の図書館に届ける「笑顔を届けるプロジェクト」、地震や津波で毀損した図書を修理する技術の普及のため、被災地で行った「製本講習会」、2013年～2014年にかけては日本出版クラブ様と共に3.11以降に出版された本を一堂に集めた展示会「本の力巡回展」など、毎年さまざまな活動を行ってまいりました。

東日本大震災以降も地震、噴火、豪雨などの自然災害が後を絶ちません。学校では防災や自然災害に関する授業などが盛んに行なわれていますが、図書室に置ける関連書籍は限られているのが現状です。

そうした状況の学校図書館において、未来を担う子どもたちに東日本大震災でなにがあったのかを広く伝えていくことは大切な使命であると捉え、2015年より「笑顔を届けるプロジェクト in school library」をキハラ被災地支援活動として開催し、2020年3月までで、全国41校と2機関にご参加いただきました。

この活動の2015年から2017年の記録については、既に2018年4月に報告書を発行させていただき、弊社ホームページ上に電子書籍としても掲載しております。

本紙は、その2冊目となり2017年7月から2021年3月までの活動報告です。

今回、「笑顔を届けるプロジェクト」の結びの活動として、東京新宿ロータリークラブ様のご協力もいただき、新しい書籍を加えて、1,426冊の震災関連図書と全国の子供達からのメッセージカード1,634枚を、宮城県気仙沼図書館様へ「笑顔文庫」として寄贈させていただきました。

この10年間活動を継続してこられましたのは、全国の多くの方々のお力添えのおかげです。心より感謝しております。笑顔文庫が、東日本大震災で起こったことを風化させずに次世代につなげる一助となり、よりいっそうの素敵な笑顔に満ちた未来がつくりだされますことを、笑顔プロジェクト製作委員会メンバー一同、心から願っております。



東日本大震災復興支援活動

笑顔を届けるプロジェクト in school library について

企画概要

2013年8月1日から11日までの11日間、日本出版クラブ会館で開催された「3.11以降の全出版『本の力』展」では、東日本大震災発生より2年間に出版された関係書籍が1470タイトル、4500冊が集まりました。9月からは公共図書館・大学を中心とした「本の力巡回展」として2014年6月までの間に11機関にて開催し、11月には第15回図書館総合展特別展示としてご紹介しました。

2015年6月には1年間の準備期間を経て、小・中・高等学校を対象とした「笑顔を届けるプロジェクト in school library」を始めることができました。本の力展の中から東日本大震災関連書籍150冊を4セット、計600冊を選書アドバイザー 齋藤紀子氏が選書し、配架用ブックトラックと共に貸し出すという内容です。

日本全国よりお申込みいただきました開催校では、震災当時の資料による授業との連携や防災教育にも活用されています。本を読んだ生徒さん達からは、専用の応援メッセージカードに心温まるメッセージをいただきました。

数多くの応援メッセージカードから、各学校3枚のカードを本誌にて皆様にご紹介いたします。



笑顔プロジェクト製作委員会によるメッセージカード選出作業

「笑顔を届けるプロジェクト in school library」は電子書籍にてご覧いただけます。
<https://www.kihara-lib.co.jp/company/csr/egao/>





開催校一覧

〈小学校〉

掲載頁	学校名	開催期間	都道府県	書籍セット
P.4	昭和学院小学校	2018/5/10～2018/6/29	千葉県	A
P.5	鹿児島市立桜峰小学校	2019/1/17～2019/2/22	鹿児島県	A

〈中学・高校〉

掲載頁	学校名	開催期間	都道府県	書籍セット
P.6	大阪市立鶴見橋中学校	2017/7/17～2017/9/11	大阪府	B
P.7	富士見丘中学高等学校	2017/9/20～2017/11/10	東京都	D
P.8	鹿児島市立吉田南中学校	2017/10/4～2017/11/7	鹿児島県	B
P.9	済美平成中等教育学校	2017/10/24～2017/11/30	愛媛県	C
P.10	横浜市立横浜商業高等学校	2017/10/26～2017/11/30	神奈川県	A
P.11	佐世保市立江迎中学校	2017/11/14～2017/12/20	長崎県	B
P.12	大津町立大津北中学校	2017/12/13～2018/1/25	熊本県	C
P.13	市川市立第八中学校	2018/1/12～2018/3/9	千葉県	D
P.14	横浜富士見丘学園中等教育学校	2018/1/15～2018/3/2	神奈川県	D
P.16	京都府立峰山高等学校	2018/2/15～2018/3/20	京都府	C
P.17	鹿児島市立吉野中学校	2018/10/26～2018/12/20	鹿児島県	D
P.18	千葉県立松戸六実高等学校	2019/6/5～2019/7/10	千葉県	C
P.19	佐世保市立相浦中学校	2019/9/27～2019/11/15	長崎県	B
P.20	北広島市立西の里中学校	2020/1/21～2020/2/28	北海道	C
P.21	東京都立南多摩中等教育学校	2020/2/17～2020/3/31	東京都	B

〈専門・公共図書館〉

掲載頁	図書館名	開催期間	都道府県	書籍セット
P.22	防災専門図書館	2018/8/3～2018/9/28	東京都	AC
P.22	気仙沼図書館	2019/3/2～2019/3/27	宮城県	ABCD



昭和学院小学校

所在地：千葉県市川市東菅野2-17-1

書籍セット：Aセット

開催期間：2018/5/10～2018/6/29



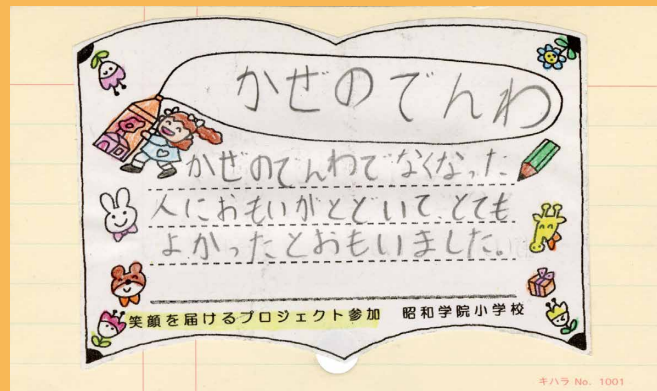
メッセージカード書籍データ

- ① 書 名：かぜのでんわ
著 者：いもとようこ 出版社：金の星社

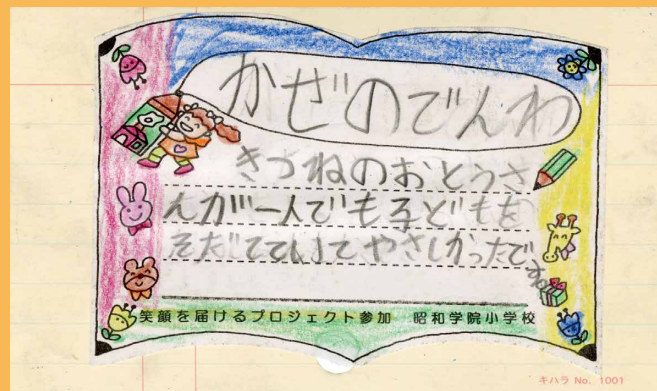
絵本「かぜのでんわ」の読み聞かせの時間を持ちました。擬人化した動物たちの切なさを受け止めました。みんなの思いはきっと空の星が受け止めてくれるよ。届いているよと本当に思いました。

選者代表 齋藤 紀子

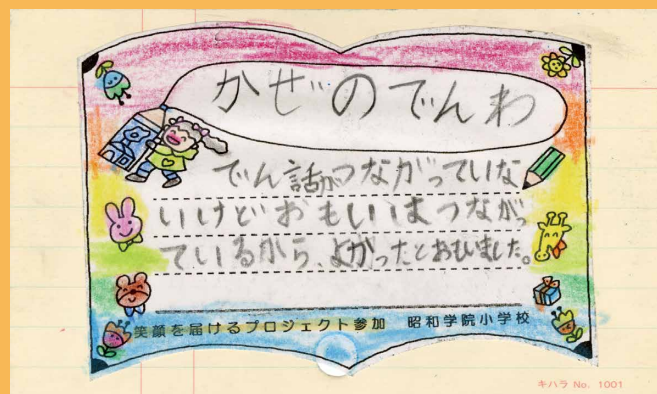
1



キハラ No. 1001



キハラ No. 1001



キハラ No. 1001

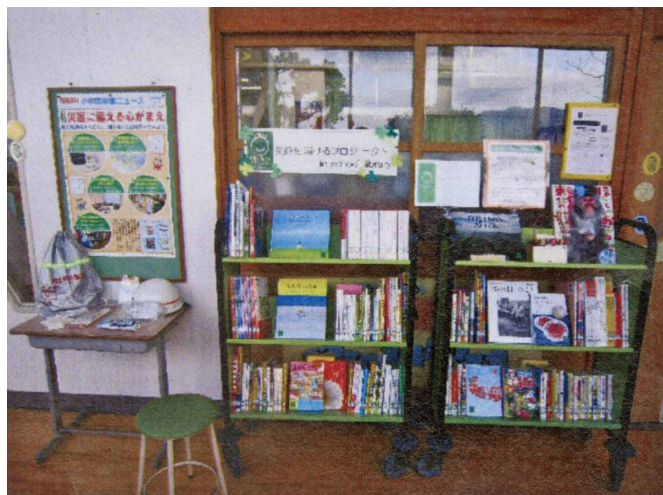


鹿児島市立桜峰小学校

所在地：鹿児島県鹿児島市桜島松浦町355

書籍セット：Aセット

開催期間：2019/1/17～2019/2/22



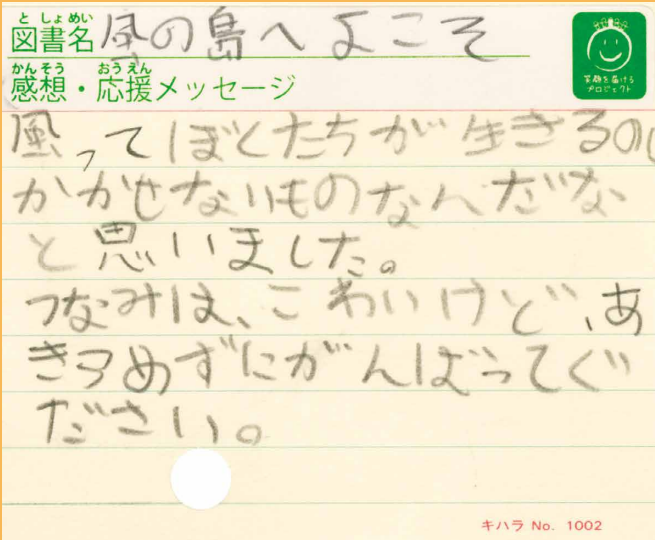
メッセージカード書籍データ

- 1 書名：風の島へようこそ
著者：アラン・ドラモンド 出版社：福音館書店
- 2 書名：東北 んめえもののうた
著者：長谷川義史 出版社：佼成出版社
- 3 書名：ふくしまからきた子
著者：松本猛 出版社：岩崎書店

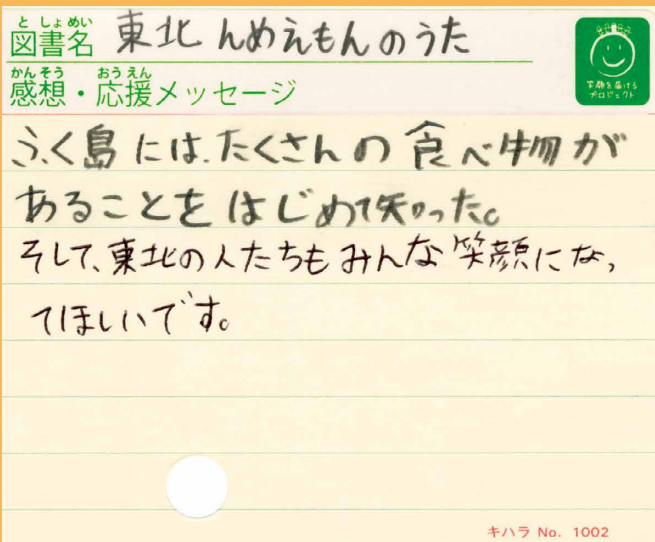
被災地福島とその人々への思いを避難先での子どもたちの暮らしや食べ物を通して考えました。自分たちと同じ年代の子どもたちのつらい体験を知り、遠くから見守りたいと思っています。

選者代表 齋藤 紀子

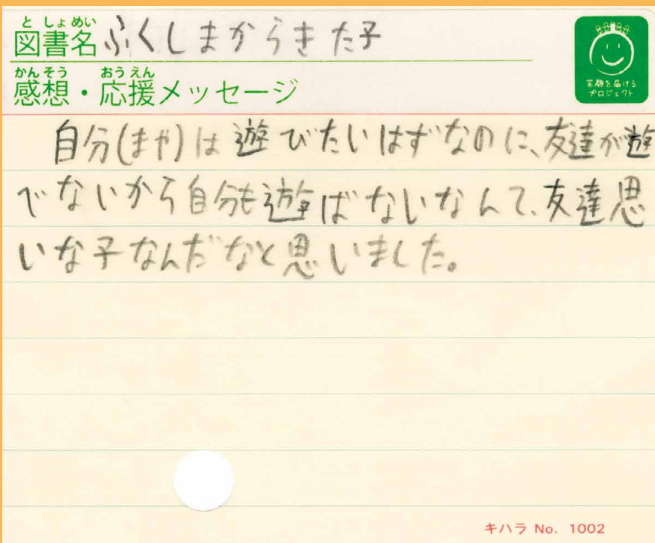
1



2



3



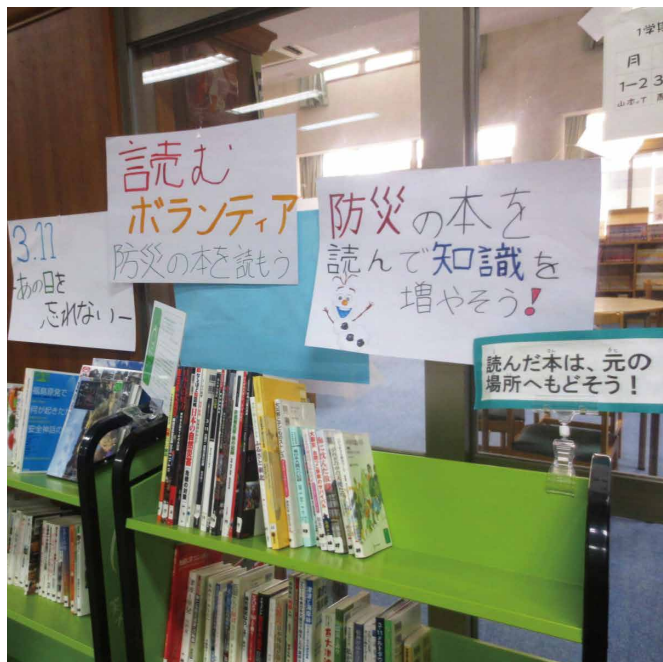


大阪市立鶴見橋中学校

所在地：大阪府大阪市西成区長橋3-9-23

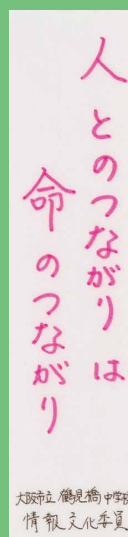
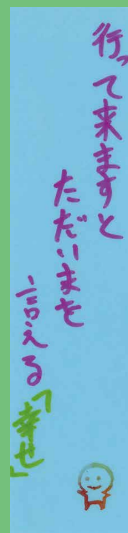
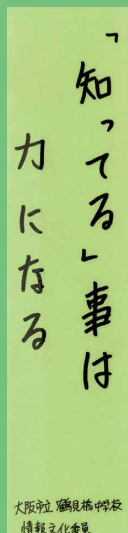
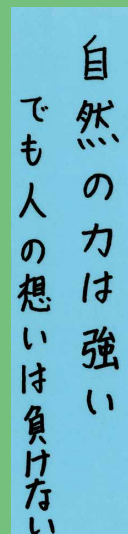
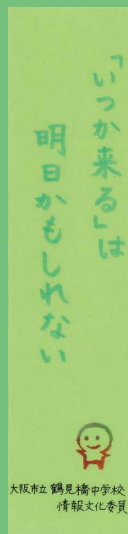
書籍セット：Bセット

開催期間：2017/7/17～2017/9/11



こちらの学校ではメッセージカードに加え、生徒の皆さんが防災や震災について考え、短冊を作ってくださいました。他の開催校でも短冊を使ってくださいとのお言葉を頂き、書籍と一緒に貸し出しをさせて頂きました。ありがとうございます。

選者代表 齋藤 紀子





富士見丘中学高等学校

所在地：東京都渋谷区笹塚3-19-9

書籍セット：Dセット

開催期間：2017/9/20～2017/11/10



メッセージカード書籍データ

1 書名：南三陸日記
著者：三浦英之 出版社：朝日新聞出版

2 書名：PRAY FOR JAPAN
出版社：講談社

3 書名：大震災でわかった学校の大問題
著者：大森直樹 出版社：小学館

あの時被災者を思いやったのは日本人だけでは無かった。世界中から温かい支援が届いていたことを知り、改めて自分は何をすべきかを考える機会を得ました。

選者代表 齋藤 紀子

1

としまめい
図書名

かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



図書名：南三陸日記

感想：記者の方が実際に被災地を訪れて被災者の方々にインタビューをしている本でした。とても生々しく、テレビだけでは知ることのできない現状をこの本を通して学ぶことができました。

キハラ No. 1002

2

としまめい
図書名

PRAY FOR JAPAN

かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



日本の人々だけでなく、世界中の人々が被災した方に向けてたくさんの温かいメッセージを送っていたことにとても感動した。SNSなどを通じて、日本が世界の人々とつながったことで、被災地の人々はたくさんの希望をもらえたことがわかった。

キハラ No. 1002

3

としまめい
図書名

大震災でわかった学校の大問題

かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



地震、津波といった自然現象とそれを受け止めてきた社会と人間の問題を見つめることが大切である。それは震災後の学校において、自然と人間についての認識を深めていく上で避けることのできない課題では

キハラ No. 1002



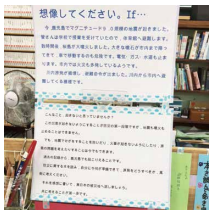


鹿児島市立吉田南中学校

所在地：鹿児島県鹿児島市本名町565

書籍セット：Bセット

開催期間：2017/10/4～2017/11/7



メッセージカード書籍データ

- 1 書名：もし東京湾に津波がきたら
著者：佐野隆 出版社：講談社
- 2 書名：福島原発事故はなぜ起きたのか
著者：井野博満 出版社：藤原書店
- 3 書名：海と、がれきと、ボールと絆。
著者：スタンダード編集部 出版社：講談社

自分は地震がおきたらきっと冷静には動けないだろう。でもあの日自分で行動し周りの人々まで動かしていた人々がいました。このことに心を動かされ、これからは避難訓練もまじめに行動し、いざというときにきちんと動けるようになりたいと思います。

選者代表 齋藤 紀子

1

としまめい
図書名 もし東京湾に津波がきたら、
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



大都市の東京に、大きな地震と大きな津波がきたら... どのようにになってしまうのか、マンガで分かりやすく書いてあって、想像しやすかった。
東京には、平地がなく、人々が多く逃げ場所が少ないとしても、この本には自分でもできることが書いてあってすこすこためになった。

キハラ No. 1002

2

としまめい
図書名 福島原発事故はなぜ起きたのか
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



福島原発で何が起こったのか、放射能汚染や放射能はどのくらい危険なのかということなどが分かりました。原発は、もともと危険だということは知っていたのですが、この本を読んで、よりわかりました。

キハラ No. 1002

3

としまめい
図書名 海とがれきとボールと絆
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



ほくたったら、地震が落ちたら、冷静に動けなくて、周りについていくことしかできないと思います。ですが、この本にでてくる人のほとんどが自分から行動し、周りの人を動かしています。
なので、まず自分からできるひなん訓練などがらまじめにしていきたいです。

キハラ No. 1002



済美平成中等教育学校

所在地：愛媛県松山市空港通5-6-3

書籍セット：Cセット

開催期間：2017/10/24～2017/11/30



メッセージカード書籍データ

- 1 書名：被災ママに学ぶちいさな防災のアイデア40
著者：アベナオミ 出版社：学研プラス
- 2 書名：だけど、くじけない
著者：長倉洋海と東北のこどもたち 出版社：NHK出版
- 3 書名：FUKUSHIMA×フクシマ×福島
著者：郡山総一郎 出版社：新日本出版社

「南海トラフ巨大地震」がいつ発生するか分からないわが身を置いている地理的状况を通して震災を自分なりに理解し何が出来るかこれから考えたいと切実に思います。

選者代表 齋藤 紀子

1

としまめい
図書名 被災ママに学ぶ 小さな防災のアイデア40
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



東日本大震災を実際に経験した人の感じたことをマンガにまとめていてとても分かりやすい本でした。私の住んでいる愛媛県も南海トラフ巨大地震がいつ起こるか分からないのでこのような本を読んでもっと対策したいです。被災地のみなさん頑張ってください！応援しています！

キハラ No. 1002

2

としまめい
図書名 だけど、くじけない
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



私はこの本で、子どもたちの今の姿をみるこができました。震災から何年も経ちましたが、復興はまだまだです。けれど、子どもたちは、自分の将来の夢を捨てたりせず頑張っていました。私はこれからもっと震災について知って、自分にできることを見つけたいです。そして、子どもたちかもちの生活に戻れるように頑張りたいです。

キハラ No. 1002

3

としまめい
図書名 FUKUSHIMA×フクシマ×福島
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



東日本大震災が起こったとき、私は小学3年生で、まだどのくらい状況なのか当時はちゃんとわかっていなかったけれど、私と同じ子も大変な目に合っている人達を悲しく感じています。2年をみて、完全に復興するにはまだたくさん時間がかかると感じています。でもお手伝いしたいなと思います。

キハラ No. 1002





横浜市立横浜商業高等学校

所在地：神奈川県横浜市南区南太田 2-30-1

書籍セット：Aセット

開催期間：2017/10/26～2017/11/30



メッセージカード書籍データ

- | | | | |
|-------|-----------------|-----------|------------|
| 1 | 書名：まさき君のピアノ | 著者：橋本安代 | 出版社：ブックマン社 |
| <hr/> | | | |
| 2 | 書名：私とあなたここに生まれて | 著者：和合亮一 | 出版社：明石書店 |
| <hr/> | | | |
| 3 | 書名：かぜのでんわ | 著者：いもとようこ | 出版社：金の星社 |

自然の脅威に改めて思いを致し、過酷な状況の中でも交わされた人と人との交流、温かい思いやりを忘れない風景に感動しました。

選者代表 齋藤 紀子

1

とよめい かんそう おうえん
図書名 まさき君のピアノ
感想・応援メッセージ



この本は、当時の被災地の実状と知る機会、そして
勇気をくれました。偏見の中、お母さんの苦しみ、葛藤に
心を動かされました。ピアノに巡り会えたこと、
たくさんの人々に生きる希望をもたせたこと、
たくさんの小さな奇跡。それによって成長してゆく
まさきさん。「応援したい」という想いが、読み進めるごとに
どんどん膨らんでゆきました。

キハラ No. 1002

2

とよめい かんそう おうえん
図書名 私とあなたここに生まれて
感想・応援メッセージ



自然、時間、そして思いの震えが、
紙細に込められた詩でした。

"きみはある時に追いついたんだね
春夏秋冬のふとした一瞬に"
という言葉が、とても印象に残りました。

キハラ No. 1002

3

とよめい かんそう おうえん
図書名 かぜのでんわ
感想・応援メッセージ



読みやすいながらも、考えさせ
られる絵本だなと思いました。
どんな思いで山を登って電話を
かけたのか、絵本だからこそ伝わって
くるような気がしました。



これからがんばってください！

キハラ No. 1002

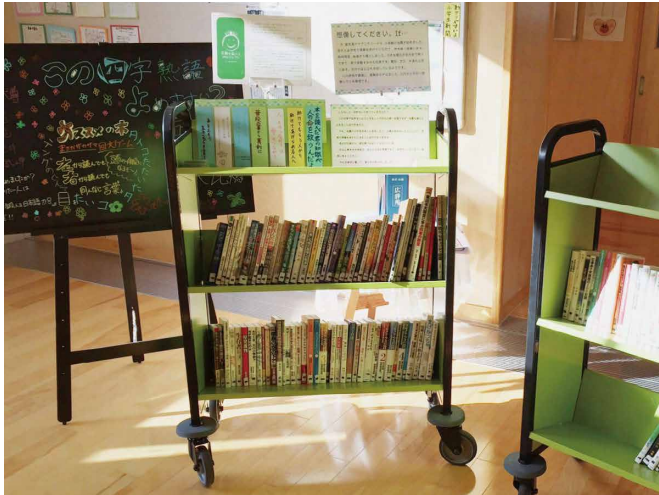


佐世保市立江迎中学校

所在地：長崎県佐世保市江迎町乱橋 584

書籍セット：Bセット

開催期間：2017/11/14～2017/12/20



メッセージカード書籍データ

- 1 書名：鎮魂 3・11 平成三陸大津波
出版社：東海新報社
- 2 書名：明日へ
著者：日本放送協会 出版社：NHK出版
- 3 書名：てんつく怒髪
著者：落合恵子 出版社：岩波書店

被災地、被災者の過酷さは想像以上であったことを展示作品を通じてその一端を知ることができました。自分たちの無力さを感じます。でもだからこそ「あなたは一人じゃない」と呼び掛けたいと思います。

選者代表 齋藤 紀子

1

としまえい
図書名 鎮魂 3・11 三陸大津波
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



被災地の方が今、どんな気持ちでどれほど苦しいのか想像もつきません。
行方不明の方、亡くなった方がいらしゃるのは、とても悲しく胸が痛みます。
被災地がよりよくなる事を願っています。
応援しています。がんばってください！

キハラ No. 1002

2

としまえい
図書名
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



明日へ
被災地のみなさんが1日でも早く
元気で笑顔を取り戻せるように九州から
応援しています。「明日へ」この本を読んで
被災者の方々の大変さが分かりました。
同じ日本にいて見ている空は一緒です。

あなたは、1人じゃない

キハラ No. 1002

3

としまえい
図書名
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



てんつく怒髪山

僕はこの本を読んで被災地にいる人たちの過酷さとそれ以外の見守ることしかできない僕たちの情けなさが良くわかりました。だから僕は、これからの生活で被災地の人たちの役に立てるように頑張ります。

キハラ No. 1002





大津町立大津北中学校

所在地：熊本県菊池郡大津町大津310

書籍セット：Cセット

開催期間：2017/12/13～2018/1/25



1

としまい
図書名 フクシマの王子さま

かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



最初は、津波のこととかげんはくの事で難
しいと思っていたけどと中に昔話やその時の
様子などはさんであつた読みやすかつたで
す。ニュースじゃわからなことで発電所の
ことが書いてあつて少しだけだけと知るこ
とができました。原子力事故はあつる確
率が50億分の1ということがしょうげき
をつけました。

キハラ No. 1002

メッセージカード書籍データ

- 1 書 名：フクシマの王子さま
著 者：椎根和 出版社：芸術新聞社

本を読み今と昔を知ることで災害について学びまし
た。震災による被害の大きさや二次災害、原子力発
電所の爆発は東日本大震災だけの事ではありません
。学び知ることで身につく衝撃を受けました。

選者代表 齋藤 紀子



市川市立第八中学校

所在地：千葉県市川市大和田4-9-1

書籍セット：Dセット

開催期間：2018/1/12～2018/3/9



メッセージカード書籍データ

- 1 書名：災害ストレスから子どもの心を守る本
著者：内海裕美 出版社：河出書房新社
- 2 書名：とんがりあたまのゴン太
著者：仲本剛 出版社：光文社
- 3 書名：巨大地震リアルシミュレーション
著者：久保範明 出版社：永岡書店

さまざまな作品にふれることによって、地震の被害は津波だけではない。火災や建物の崩壊その他色々あることを知りました。ペットとの別れ、小さな子供たちの子々表には出にくいつらさもあるのだと気付かされました。

選者代表 齋藤 紀子

1

図書名 災害のストレスから子どもの心を守る本
感想・応援メッセージ



災害にあってしまった子どもたちは
様々なサインを出すという事がこの本から
分かった。SOSサインなどをさりげなく
表現し大人や家族に助けを求めている。
僕も小さな妹がいるので、災害があった
時だけでなく、日々の生活から色々なサイン
に注目 〇〇 していきたい。

キハラ No. 1002

2

図書名 とんがりあたまのゴン太
感想・応援メッセージ



今まで通りの日常を送っていたのに大きい地震
一つで何もかも変わるんだと思った。
放射能がもれて、ペットと離れるのはお互い
に辛いと思う。でもゴン太は、亡くなる前
に家族と再会できてとても嬉しいはず。
自分もペットを飼っているから、1日1日を
大事にして 〇〇 一緒にみんなですご
したいと思う。

キハラ No. 1002

3

図書名 巨大地震リアルシミュレーション
感想・応援メッセージ



地震の被害は津波だけでなく火災や建物ほう
かいなどもあると分かった。
この本を読んで首都直下型地震は30年以内に80%
ぐらいの確率でくるということが分かったから地震が
きても相定外ではすまれないと思った。東日本大
震災のことを忘れずに地震の対策をもっとしっかりと
したいと思った。 〇〇

キハラ No. 1002





横浜富士見丘学園中等教育学校 「笑顔プロジェクト in school library」特別授業



平成30年1月30日横浜市にある私学、横浜富士見丘学園中等教育学校(中高一貫校)にて「笑顔プロジェクト in school library」特別授業が開催されました。1月15日から2月末まで貸し出しを行い、齋藤紀子氏による開催期間中の特別講義です。中学1・2年生50名を対象に90分間、図書室にて開催となりました。

図書館バス・笑顔プロジェクトを中心に、当時の被災地での様子について、読書推進としての読み聞かせ、折り紙体験を行い、参加した生徒さん達は真剣に聞き入りながらも笑い声が出る等、大変盛り上がりました。学校側からは図書ご担当教諭他、理事長・校長先生、他4名の先生方も見学されました。





京都府立峰山高等学校

所在地：京都府京丹後市峰山町古殿1185

書籍セット：Cセット

開催期間：2018/2/15～2018/3/20



メッセージカード書籍データ

- 1 書名：FUKUSHIMA×フクシマ×福島
著者：郡山総一郎 出版社：新日本出版社

司書の方からもメッセージをいただきました。子どもたちを守る立場として、震災に関する様々な情報を子どもたちに伝えて欲しいと思います。生徒による地域震災の歴史と教訓を伝える活動は素晴らしいと思いました。

選者代表 齋藤 紀子

1

としまめい
図書名 FUKUSHIMA×フクシマ×福島
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



建物の倒壊などを撮影した写真はほとんどなかったですが、一枚一枚から被災地の不安な様子が伝わってきて、震災の影響の大きさを改めて感じました。

キハラ No. 1002

としまめい
図書名
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



本校のある丹後地域でも、昭和2年(1927)3月7日に大きな地震があり(北丹後大震災)約3,000人の犠牲者が出ました。峰山高校では、震災の歴史と教訓を伝えることを目的に生徒の一部が子どもや住民の古き対象に震災にゆかりのある場所をガイドする取組を昨年度から行っています。

キハラ No. 1002

→東日本大震災関連の本も、これから世代に地震や津波の恐ろしさを伝える貴重な資料です。そういうこの取組が今後も全国で役に立つことを願っています。



鹿児島市立吉野中学校

所在地：鹿児島県鹿児島市吉野町3074

書籍セット：Dセット

開催期間：2018/10/26～2018/12/20



メッセージカード書籍データ

- 1 書名：南三陸から〈vol.2〉2011.9.11～2012.3.11
著者：佐藤信一 出版社：ADK南三陸町復興支援プロジェクト
- 2 書名：震災が教えてくれたこと
著者：今野公美子 出版社：朝日学生新聞社
- 3 書名：災害ストレスから子どもの心を守る本
著者：内海裕美 出版社：河出書房新社

何げない日々の大切さに気づき、災害の恐ろしさを学びました。災害による大切な人との別れ、復興にかかる長い時間、避難所や仮設住宅での生活は子どもたちにも大変なストレスがある事を知りました。

選者代表 齋藤 紀子

1

とよめい 南三陸から vol.2 2011.9.11～2012.3.11
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ

何ゆなく過ごしていた日々が
急にこわれてしまい、大変な日々
を過ごしていると思います。
直接、ほくができることはありませんが、
応援しています。これから、
協せて、がんばって下さい。
一刻も早く、ふ、こうすることを
いの、ています。

キハラ No. 1002

2

とよめい 震災が教えてくれたこと
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ

家族や、友人を亡くされて、大変
つらいと思います。3月11日の日の事が
よく分かりました。3.11の日を思い出
すのかいやだと思いますが、その事を本に
してくれて、ありがとうございます。
まだ、震災のあとが残っていると思いま
すが、体を大切に体調をくずさず
がんばってください。

キハラ No. 1002

3

とよめい 災害から子どもの心を守る本
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ

本を読み、子どもは思っている以上にストレスを
受けていて、苦い思いをしていることをあらためて
実感しました。災害から何年経っていても、
大切な人が帰ってこなかったり、いまだに忘
れられない人も沢山いると思います。なので
私の応援メッセージで少しでも多くの人の
心の傷をカバーできたら良いです。
ふ、こうがんばって下さい。応援しています。

キハラ No. 1002





千葉県立松戸六実高等学校

所在地：千葉県松戸市六高台 5-150-1

書籍セット：Cセット

開催期間：2019/6/5～2019/7/10



メッセージカード書籍データ

- 1 書名：希望の木
著者：新井満 出版社：大和出版
- 2 書名：復活への記憶 東北ふるさとのアルバム
著者：マガジンハウス 出版社：マガジンハウス
- 3 書名：ドキュメント震災三十一文字
著者：日本放送協会 出版社：NHK出版

初めて経験した大きな揺れに恐怖を覚えたあの日を思い出したと、翌年現地に足を運んだ時、「この震災を忘れてはいけない」と強く思った気持ちを持ち続けたい。

選者代表 齋藤 紀子

1

としまめい 希望の木
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



実習生として久しぶりに母校に帰ってきましたが、今は図書館でこういったプロジェクトも行っているのだな、すごく素敵だなと思いました。本を読み、当時中学1年生で関東でもものすごい揺れがなかった事を思い出しました。被災地のみなさんが元の生活に戻れる日を心から祈っています。

キハラ No. 1002

2

としまめい 復活への記憶 東北ふるさとのアルバム
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



2011年からもう8年が経って、月日がとても早く感じる。今だに、復興できていない地域もあると聞いてビックリした。震災が起こった翌年、父が単身赴任で松島に行っていて、私も母と松島に行っていたことがある。テレビで見た写真や映像が実際に起こっているのと同じ時、実際にこの災害は忘れてはいけないものだし、受け継がれていくべきものであると私は思う。

3

としまめい 震災三十一文字
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



本の中にたたえられた多くの歌に、歌を創った方の数えきれない程の想いを感じ、自分とは違う、離れたところにいる人々が震災当時の気持ちと想像させられました。

キハラ No. 1002



佐世保市立相浦中学校

所在地：長崎県佐世保市川下町277

書籍セット：Bセット

開催期間：2019/9/27～2019/11/15



メッセージカード書籍データ

1 書名：写真集ツナミの涙ーこれからの僕たちへ
著者：上田聡 出版社：第三書館

2 書名：東日本大震災2011.3.11 1ヶ月の全記録
出版社：京都新聞出版センター

3 書名：海をうらまない
著者：佐野啓子 出版社：合同出版

「島に住んでいる私」は津波の恐ろしさは知識として持っているが、この震災で19,000人もの命が失われた現実を知り、これからの自分の暮らしを考えたい。

選者代表 齋藤 紀子

1

とよめい
図書名 ツナミの涙ーこれからの僕たちへ
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



私はこの本を読んでとても悲しくなりました。
死者や行方不明者が約1万9千人と書いてあるのを見て私はまだみつからない人たちがみつかったらいいなと思いました。最後に私は島に住んでいるのでつなみがきたらあぶないと思っているので気を付けます。私はみなさんの幸せをいのています。

キハラ No. 1002

2

とよめい
図書名 東日本大震災2011.3.11 1ヶ月の全記録
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



東日本大震災の写真集を読んだ時にたくさんの方が家族とつぜんはなれて震災にあつてけがやなくなつたりとかいろいろだと思いました。東日本の時みたいな震災がなくなつてほしいと思いました。地震などは自然災害みたいなのはいいは二度とおきてはほしくないです。

キハラ No. 1002

3

とよめい
図書名
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



「海をうらまない」
佐藤 啓子さんがついにじょうぶでも、このホエムをかいていて、東日本大震災のおそろしさがよくわかりました。これからもう旧でも早い復興を心がけようと思っています。

キハラ No. 1002



北広島市立西の里中学校

所在地：北海道北広島市西の里790-1

書籍セット：Cセット

開催期間：2020/1/21～2020/2/28



メッセージカード書籍データ

- ① 書 名：3.11を心に刻んで
出版社：岩波書店
-
- ② 書 名：原発・放射能図解データ
著 者：野口邦和 出版社：大月書店

本を読むことでこの震災の重大さを改めて知りました。後世に伝えることが大切と痛感しました。原発問題に関してもこれからもっともっと勉強しなければなりません。そして記録を残すことの重要さも強く感じています。

選者代表 齋藤 紀子

1

としょめい
図書名 3.11 を心に刻んで

かんそう おうえん
感想・応援メッセージ



今になつて事の重大を知つた
僕は、この本を讀んで、後世に伝
えていかなければいけないと
思ひました。またまた心配なこと
や不十分なこともあるかと思ひます
が、強く希望を捧げて生きて下さい。
応援しています。

キハラ No. 1002

2

図書名 原發放射能 図解データ
感想・応援メッセージ



原子力発電について普通の人よりも詳しいと思っていましたが、この本を讀んで、新たに知る事が多し、も、と震災について知る必要があると思うきっかけになりました。僕は、原発について賛成派の考えだ、たのですが、
 核廃絶のことを深く調べてみようと思います。

キハラ No. 1002

キハラ No. 1002

東京都立南多摩中等教育学校

所在地：東京都八王子市明神町4-20-1

書籍セット：Bセット

開催期間：2020/2/17～2020/3/31



メッセージカード書籍データ

- ① 書 名：「つなみ」の子どもたち
著 者：森健 出版社：文藝春秋

② 書 名：なぜ院長は「逃亡犯」にされたのか
著 者：森功 出版社：講談社

③ 書 名：野崎洋光のおいしい節電レシビ
著 者：野崎洋光 出版社：東洋経済新報社

大変な体験をしながらもけなげに心強く立ち上がる子どもたちの姿が衝撃的でした。また混乱する中で流される報道が正確かどうか、一歩立ち止まって考える姿勢が大切ということも学びました。

選者代表 齋藤 紀子

1

とよめい
図書名 「うなみ」の子どもたち
かんそう おうえん
感想・応援メッセージ

津波も、誰かの死も体験したことのない私にとっては、なぜこどもたちが、東北がこれほど強いのか、疑問に思われる衝撃的な内容でした。自分が生まれた場所への特別な思いが、津波におそわれても消えていないことに特に驚きました。今の日本をつくっている、そういった人々の意志に、深く感謝をしたい気持ちになりました。私には故郷を想う気持ちがあつたようにけれど、大切な人がいることは「なみ」の子どもたちと同じです。私にも私を強くしているものがあるのだと思います。

キハラ No. 1002

キハラ No. 1002

2

図書名 ^{としょめい}なぜ院長は「逃亡犯」にされたのか
感想 ^{かんそう}・ ^{おうえん}応援メッセージ

私はこの本を読んで、新聞などの報道をうかがうのにしてはいないという
思いがわくようになった。メディアは必ずしも正しいとはい限らないと賞え生
活していた。この本に出てくる双葉病院のスタッフの方々はあらぬこ
とをかれかれ、薄く辛い思いをされたと思うと心から痛い。特に原菜のおそれ
さを再認識した。将来、私たちが日本をリードしていく中でこの向題は
避けては通ることは出来ない向題だと思ふ。原菜のおそれをいかに
心から考えていられ
けいばならない。特に読報というものが
おそれいのか、というところもわかってきた。

キハラ No. 1002

キハラ No. 1002

3

としょめい
図書名 野崎洋光のおいしい節電レシピ

かんそう おうえん
感想・応援メッセージ

被災時には、手に入る食材の量・種類・質は限られているので、実際に調理をするときには、レシピ本通りの材料は中々そろえられないかもしれません。しかし、この本を参考に多くの味を覚えたいと思いました。

キハラ No. 1002



笑顔を届けるプロジェクト in school library を2つの図書館で特別開催をしました。

防災専門図書館

所在地：東京都千代田区平河町 2-4-1 (日本都市センター会館8階)

開催期間：2018/8/3 ～ 2018/9/28



気仙沼図書館

所在地：宮城県気仙沼市笹が陣 3-30

開催期間：2019/3/2 ～ 2019/3/27

(メッセージカードの展示も行いました。)





笑顔を届けるプロジェクト in school library

本を通じて東北とつながりませんか？

参加していただける学校図書館を募集しています。

東日本大震災以降、地震、噴火などの自然災害が後を絶ちません。学校では防災や自然災害に関する授業などが盛んに行われていますが、図書室には関連する資料がほとんどないのが現状です。今回、そうした状況の学校図書館において、未来を担う子どもたちに東日本大震災でなにがあったのかを広く伝えていくことは大切な使命であると捉え「笑顔を届けるプロジェクト in school library」をキハラ被災地支援活動として企画いたしました。この活動によって、遠く離れた地域に住む同世代の友達から応援メッセージを受け取った被災地の子どもたちが、勇気づけられ笑顔を取り戻すことを願っています。

学校図書館を対象に、選書した東日本大震災関連の本150冊とブックトラック2台を貸し出します。閲覧はもちろんテーマ学習、調べ学習などの授業と連携して活用していただけます。その際、本に装備されている読書応援カードに、本を読んだ子どもたちに応援メッセージを記入してもらいます。読書応援カードは次の開催校へとつながって、最終的に東北の子どもたちへ届けられます。

笑顔ブックトラック セット一式



東北の図書館 子どもたち

東北との交流

- ・つながる読書応援カード
- ・読書による他県の学校との交流
- ・子どもたちのきずな



学校授業に活かす

- ・東日本大震災本の特別閲覧
- ・テーマ学習、調べ学習などの授業利用
- ・ブックトークなどのイベント利用



学校 図書館

子どもたち

東北を応援！

- ・授業や読書を通して、震災について学習
- ・読書応援カードによる東北へのメッセージ
- ・東日本大震災の再認識



貸出品 ブックトラック2台・サイン1式・本150冊（リスト付属）※資料内容は小学校用、中学校・高等学校用がございます。

貸出期間 1ヵ月程度を予定しています。（※期間・開始日についてはキハラ担当とご相談ください。）

開催中の運用 ・運用方法は各校にお任せします。館内閲覧のほか、調べ学習、テーマ学習、休み中の課題・宿題などに活用いただけます。

・本の見返し部分の読書応援カードに氏名・応援メッセージを書いてもらいます。

貸出品の設営・撤収 ・各地域の営業担当が車で持参して、設営及び撤収を行います。…ブックトラック、本・サインの設置など。

お申し込み・問い合わせ先

キハラホームページにてお申し込みいただけます。

フォームに必要内容をご記入ください。

後日、キハラのプロジェクト担当よりご連絡させていただきます。

※応募多数の場合、ご希望にそえないこともございます。ご了承ください。

<http://www.kihara-lib.co.jp>

防災教育に
ご活用ください





東日本大震災復興支援活動 笑顔を届けるプロジェクト in school library 笑顔文庫図書と書架の寄贈並びに感謝状贈呈式

開催日：2021年3月18日

場 所：気仙沼図書館

参加者：気仙沼市／小山教育長、池田教育部長、三浦参事兼生涯学習課長

吉田館長、吉田副館長（司会）

新宿ロータリークラブ／山内会長、長尾幹事長、大谷委員（補助金担当）

岡田新一設計事務所／柳瀬代表取締役社長

齋藤紀子（笑顔を届けるプロジェクトアドバイザー）

キハラ株式会社／木原、工藤、川上、高田

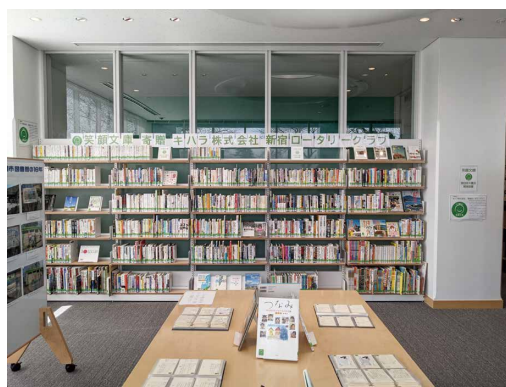


笑顔文庫、メッセージカードアルバム前 記念写真

（左より）新宿ロータリークラブ 大谷委員、長尾幹事長、木原、小山教育長、吉田館長、
新宿ロータリークラブ 山内会長、岡田新一設計事務所 柳瀬代表取締役社長



笑顔を届けるプロジェクト in school library メッセージカードをご覧になる小山教育長（中央）



笑顔文庫、メッセージカードアルバム



木原 小山教育長 感謝状贈呈



山内会長 小山教育長 感謝状贈呈

東日本大震災発生から10年を節目として、笑顔を届けるプロジェクト「本の力」巡回展、笑顔を届けるプロジェクト in school library にて使用した書籍1426冊、メッセージカード1634枚を配架した特製の書架と共に、宮城県気仙沼図書館様に寄贈を行いました。

また、キハラより新宿ロータリークラブ様へ依頼し、約50万円分の新規書籍購入費の補助をいただきました。気仙沼図書館様では「笑顔文庫」と命名され、図書館を訪れる方に自由に見ていただけるよう設置されました。



朝日新聞宮城版 (2021年3月31日掲載)



三陸新報 (2021年3月21日掲載)

当日は朝日新聞気仙沼支局、三陸新報の記者に取材していただきました。

また、国立国会図書館カレントアウェアネス・ポータルにも掲載されています。

国立国会図書館カレントアウェアネス・ポータル
<https://current.ndl.go.jp/node/43625>



書籍セット一覧

A セット

No	タイトル (巻次 / 版)	著 者	出版者
1	いきているひかり	Bang Molly	評論社
2	ハナミズキのみち	浅沼ミキ子	金の星社
3	松の子ピノ	北門笙	小学館
4	かあさんのこもりうた	こんのひとみ	金の星社
5	みえないばくだん	たかはしよしこ	小学館
6	True Feelings	初沢亜利	三栄書房
7	奇跡の一本松	なかだえり	汐文社
8	東北んめえもののうた	長谷川義史	佼成出版社
9	あのひのこと = Remember March 11, 2011	葉祥明	佼成出版社
10	風の島へようこそ	Drummond Allan	福音館書店
11	つなみ	田畑ヨシ	産経新聞出版
12	72時間生きぬくための101の方法	なつみどり	童心社
13	知ろう！防ごう！自然災害／1 (地震・津波・火山噴火)／増補改訂版	佐藤隆雄	岩崎書店
14	災害・防災図鑑	環境防災総合政策研究機構	文溪堂
15	はしれ、上へ！	指田和子	ポプラ社
16	東日本大震災伝えなければならない100の物語／第1巻 (その日)		学研教育出版
17	東日本大震災伝えなければならない100の物語／第2巻 (明けない夜はない)		学研教育出版
18	東日本大震災伝えなければならない100の物語／第3巻 (生きることを、生きるために)		学研教育出版
19	東日本大震災伝えなければならない100の物語／第4巻 (助け合うこと)		学研教育出版
20	東日本大震災伝えなければならない100の物語／第5巻 (放射能との格闘)		学研教育出版
21	東日本大震災伝えなければならない100の物語／第6巻 (絆)		学研教育出版
22	東日本大震災伝えなければならない100の物語／第7巻 (希望をつむぐ)		学研教育出版
23	東日本大震災伝えなければならない100の物語／第8巻 (広がりゆく支援の輪)		学研教育出版
24	東日本大震災伝えなければならない100の物語／第9巻 (再生と復興に向かって)		学研教育出版
25	東日本大震災伝えなければならない100の物語／第10巻 (未来へ)		学研教育出版
26	語りつぎお話絵本 3月11日／8 (ふるさとをとりもどす！)	WILL	学研教育出版
27	語りつぎお話絵本 3月11日／7 (広がる支援の輪)	WILL	学研教育出版
28	語りつぎお話絵本 3月11日／6 (助け合う人たち)	WILL	学研教育出版
29	語りつぎお話絵本 3月11日／5 (子どもたちの「ちから」)	WILL	学研教育出版
30	語りつぎお話絵本 3月11日／4 (支え合ったひなん所)	WILL	学研教育出版
31	語りつぎお話絵本 3月11日／3 (家族と会えた)	WILL	学研教育出版
32	語りつぎお話絵本 3月11日／2 (にげる！津波だ！)	WILL	学研教育出版
33	語りつぎお話絵本 3月11日／1 (午後2時46分)	WILL	学研教育出版
34	ボランティア奮闘記	日本財団	木楽舎
35	3・11あの日のこと、あの日からのこと	鎌田雅子	かもがわ出版
36	尾木ママと考える大震災後を生きる希望のヒント	尾木直樹	金曜日
37	ヒーローズ・カムバック	細野不二彦	小学館
38	3・11生みの苦しみによりそって	高垣忠一郎	かもがわ出版
39	特別授業3.11 君たちはどう生きるか	あさのあつこ	河出書房新社
40	こうすればじょうずに節電できる	池上彰	小学館クリエイティブ
41	命を守る防災サバイバルBOOK	小学館	小学館
42	いつか帰りたいぼくのふるさと = Kitty's Journey from Fukushima	大塚敦子	小学館
43	フクシマ2011、沈黙の春	八木澤高明	新日本出版社
44	おもかげ復元師の震災絵日記	笹原留似子	ポプラ社
45	希望のキャンプ	田口ランディ	汐文社
46	親子のための地震イツモノート	寄藤文平	ポプラ社
47	放射線になんか、まけないぞ！	坂内智之	太郎次郎社エディタス
48	教室で教えたい放射能と原発	江川多喜雄	いかだ社
49	どうする？ どうする？ ほうしゃせん	山田ふしぎ	大月書店
50	立入禁止区域双葉		汐文社

Aセット

No	タイトル(巻次/版)	著 者	出版者
51	ふくしまからきた子	松本猛	岩崎書店
52	どうする? どうする? ほうしゃせん/図書館版	山田ふしぎ	大月書店
53	ラース	ブラザートム	SDP
54	タンポポあの日をわすれないで	光丘真理	文研出版
55	イラクから日本のおともだちへ	佐藤真紀	子どもの未来社
56	ウリンボー	荒井良二	芸術新聞社
57	はしるってなに	和合亮一	芸術新聞社
58	ふるさとフクシマ子どもたちの3.11	元気になるう福島	文研出版
59	フクシマから学ぶ原発・放射能	安齋育郎 監修	かもがわ出版
60	原子力がわかる事典	原子力教育を考える会	PHP研究所
61	放射線の大研究	原子力教育を考える会	PHP研究所
62	よくわかる放射線・放射能の問題	矢沢事務所	学研教育出版
63	「あの日」、そしてこれから	高橋邦典	ポプラ社
64	のこされた動物たち	太田康介	飛鳥新社
65	福島原発事故と女たち	近藤和子	梨の木舎
66	大震災サバイバルBOOK	テレンス・リー	主婦の友社
67	命を守る教育	片田敏孝	PHP研究所
68	まさき君のピアノ	橋本安代	ブックマン社
69	捨て犬・未来命のメッセージ	今西乃子	岩崎書店
70	さくら	馬場国敏	金の星社
71	2年目の3・11	加藤秀視 監修	栄久堂
72	ひとりじゃない	日本放送協会	NHK 出版
73	21 人の輪	杉浦大悟	NHK 出版
74	死なない! 死なせない! 大震災から家族を守る!	三井康壽	世界文化社
75	白いガーベラ	内田麟太郎	今人舎
76	上を向いて歩こう!	のぶみ	講談社
77	命を預かる保育者の子どもを守る防災BOOK	猪熊弘子	学研教育出版
78	重症児者の防災ハンドブック	田中総一郎	クリエイツかもがわ
79	池上彰の学べるニュース/ 5(臨時特別号)	池上彰	海竜社
80	君の心で花は咲く	李承信	飛鳥新社
81	私とあなたここに生まれて	和合亮一	明石書店
82	「核の今」がわかる本	太田昌克	講談社
83	玉川徹のそもそも総研/原発・電力編	玉川徹	講談社
84	「被災者目線」の復興論	日野秀逸	新日本出版社
85	3.11 を生きのびる	江川紹子	かもがわ出版
86	若者たちの震災復興	広井良典	農山漁村文化協会
87	3.11 / After	隈研吾	LIXIL 出版
88	復興の書店	稲泉連	小学館
89	日本人は災害からどう復興したか	渡辺尚志	農山漁村文化協会
90	東日本大震災復興への道	田結庄良昭	クリエイツかもがわ
91	耐震・制震・免震が一番わかる	高山峯夫	技術評論社
92	日本復興(ジャパン・ルネッサンス)の鍵受け身力	呉善花	海竜社
93	震度7から家族を守る家	国崎信江	潮出版社
94	停電・震災に備えるPC管理術	橋本和則	技術評論社
95	東日本大震災からの復興まちづくり	佐藤滋	大月書店
96	地震わが家のお助けノート	玉木貴	青春出版社
97	3・11(さんてんいちいち)と憲法	森英樹	日本評論社
98	カラー図解ストップ原発/ 1	新美景子	大月書店
99	今こそ考えよう! エネルギーの危機/第1巻	小椋正己	文溪堂
100	見学! 自然エネルギー大図鑑/ 3(バイオマス・温度差発電ほか)	飯田哲也	偕成社



Aセット

No	タイトル(巻次/版)	著 者	出版者
101	カーリーナのりんご	今関あきよし	子どもの未来社
102	甦れ! 気仙沼港	吉川順一	アートダイジェスト
103	東日本大震災2011・3・11「あの日」のこと	高橋邦典	ポプラ社
104	THE DAYS AFTER	石川梵	飛鳥新社
105	ほんとおおきさ特別編元気です! 東北の動物たち	尾崎たまき	学研教育出版
106	安斎育郎先生の原発・放射能教室/第2巻(なぜ、なに? 原発事故の危険)	安斎育郎	新日本出版社
107	3.11が教えてくれた防災の本/4(避難生活)	片田敏孝	かもがわ出版
108	3.11が教えてくれた防災の本/3(二次災害)	片田敏孝	かもがわ出版
109	3.11が教えてくれた防災の本/2(津波)	片田敏孝	かもがわ出版
110	3.11が教えてくれた防災の本/1(地震)	片田敏孝	かもがわ出版
111	よくわかる原子力とエネルギー/1	野口邦和	ポプラ社
112	よくわかる原子力とエネルギー/2	舘野淳	ポプラ社
113	よくわかる原子力とエネルギー/3	舘野淳	ポプラ社
114	カラー図解ストップ原発/4	高橋真樹	大月書店
115	カラー図解ストップ原発/3	新美景子	大月書店
116	カラー図解ストップ原発/2	新美景子	大月書店
117	まるこをすくった命のリレー	杏有記	文溪堂
118	生きている生きてゆく	「ビッグバレットふくしま避難所記」刊行委員会	
119	宮城県気仙沼発! ファイト新聞	ファイト新聞社	河出書房新社
120	ふくしまの子どもたちが描くあのとき、きょう、みらい。	蟹江杏	徳間書店
121	'12 子ども白書	日本子どもを守る会	草土文化
122	つなみ	森健	文藝春秋
123	福島の子どもたちからの手紙	KIDS VOICE	朝日新聞出版
124	暮らしは私たちが守る	田口香世	商業界
125	みんなを守るいのちの授業	片田敏孝	NHK 出版
126	地震のはなしを聞きに行く	須藤文音	偕成社
127	地震のひみつ	翠川三郎	学研教育出版
128	ドラえものの地震はなぜ起こるどう身を守る	藤子・F・不二雄	小学館
129	津波をこえたひまわりさん	今関信子	佼成出版社
130	ふたたびの春に	和合亮一	祥伝社
131	災害救助犬レイラ	井上こみち	講談社
132	フラガールと犬のチョコ = Hula girl and Choco	祓川学	ハート出版
133	はやく、家にかえりたい。	鎌田実	合同出版
134	世界の言葉で「ありがとう」ってどう言うの?	池上彰	今人舎
135	井戸水とお父さん	千葉直美	創風社
136	ガレキの中にできたカフェ	西山むん	明石書店
137	子どもを放射能汚染から守りぬく方法	武田邦彦	主婦と生活社
138	子どもたちの未来のために	斉藤武一	寿郎社
139	光になった馬。	EPO	主婦の友社
140	津波から生きのびた馬	白木恵委子	遊行社
141	4コマですぐわかるみんなの防災ハンドブック	草野かおる	ディスカヴァー・トゥエンティワン
142	放射能と子ども達	碓井静照	ガリバープロダクツ
143	原発事故と子どもたち	黒部信一	三一書房
144	震災と心のケア	片山和子	日東書院本社
145	14歳からの原発問題	雨宮処凛	河出書房新社
146	さようなら原発の決意	鎌田慧	創森社
147	日本人は「脱原発」ができるのか	川本兼	明石書店
148	大震災の記録と文学	須知徳平	勉誠出版
149	大悲	大雨雄峰	文芸社
150	田坂教授、教えてください。これから原発は、どうなるのですか?	田坂広志	東洋経済新報社

B セット

No	タイトル(巻次/版)	著 者	出版者
1	東日本大震災に学ぶ日本の防災	地震予知総合研究振興会	学研教育出版
2	三連動地震迫る	木股文昭	中日新聞社
3	地球の声に耳をすませて	大木聖子	くもん出版
4	写真集 ツナミの涙 ―これからの僕たちへー	上田聡 写真	第三書館
5	いちばんよくわかる防災・防火・セキュリティ設備	タック	TAC 出版事業部
6	災害について学ぶ		上毛新聞社
7	東日本大震災	朝日新聞社	朝日新聞出版
8	日本人の底力	産業経済新聞社	産経新聞出版
9	日本の自然災害		昭文社
10	3.11の衝撃震災・原発特報部は伝えた	東京新聞	中日新聞社
11	3.11大震災・原発災害の記録	橋本紘二	農山漁村文化協会
12	チェルノブイリ春	中筋純	二見書房
13	東日本大震災全記録		河北新報社
14	東日本大震災		神戸新聞社
15	自衛隊員が撮った東日本大震災	マガジンハウス	マガジンハウス
16	闘う日本	産業経済新聞社	産経新聞出版
17	津波被災前・後の記録	東北建設協会	河北新報出版センター
18	巨大津波が襲った3・11大震災		河北新報社
19	平成の三陸大津波		岩手日報社
20	鎮魂3.11 平成三陸大津波		東海新報社
21	ふるさと東北	日貿出版社	日貿出版社
22	インフォグラフィクス原発	Gonstalla Esther	岩波書店
23	東日本大震災の記録	陽捷行	養賢堂
24	もし東京湾に津波がきたら	佐野隆	講談社
25	子どもの命は守られたのか	数見隆生	かもがわ出版
26	大震災自閉っこ家族のサバイバル	高橋みかわ	ぶどう社
27	海に沈んだ故郷(ふるさと)	堀込光子	連合出版
28	がれきの中の天使たち	椎名篤子	集英社
29	いのちを守る都市づくり/課題編(東日本大震災から見えてきたもの)	大阪市立大学	大阪公立大学共同出版会
30	大災害と子どものストレス	藤森和美	誠信書房
31	地震に克つニッポン	東京大学海洋アライアンス	小学館
32	津波と原発	佐野真一	講談社
33	新たな防災政策への転換	中村八郎	新日本出版社
34	首都直下地震にいますぐ備える本	阿部慶一	河出書房新社
35	首都圏大震災その予測と減災	角田史雄	講談社
36	すぐできる!「地震に強い家」にする80の方法	高森洋	講談社
37	福島からあなたへ	武藤類子	大月書店
38	南相馬10日間の救命医療	太田圭祐	時事通信出版局
39	「あの日」に生まれてきた命	鮫島浩二	アспект
40	なぜ院長は「逃亡犯」にされたのか	森功	講談社
41	医師たちの証言	谷川攻一	へるす出版
42	帰宅難民なう。	難民A	北辰堂出版
43	SOS! 500人を救え!	森安章人	三一書房
44	ドキュメント東日本大震災救助の最前線で	イカロス出版株式会社	イカロス出版
45	シンプルに生きる。	柳田邦男	清流出版
46	大震災日本列島が揺れた	まどみちお	小峰書店
47	きちんと逃げる。	広瀬弘忠	アспект
48	東日本大震災津波	越野修三	ぎょうせい
49	長野県の地震入門	塚原弘昭	しなのき書房
50	東日本大震災・ダイジェスト		近代消防社



Bセット

No	タイトル(巻次/版)	著 者	出版者
51	2011年東日本大震災で発生した千葉県北東部の津波	加瀬靖之	文芸社
52	津波と海岸林 = Coastal forest for tsunami	佐々木寧	共立出版
53	小さな町を呑みこんだ巨大津波	やまもと民話の会	小学館
54	震災と語り	小泉武栄	三弥井書店
55	私が見た大津波	河北新報社	岩波書店
56	松林が命を守る	遠山益	第三文明社
57	それでもいまは、真っ白な帆を上げよう	旺文社	旺文社
58	海をうらまない	佐藤啓子	合同出版
59	3・11メルトダウン	日本ビジュアルジャーナリスト協会	凱風社
60	春を待つ里山	山口明夏	ポプラ社
61	南三陸町からの手紙	野寺治孝	栄久堂
62	これからだ	林家木久扇	今人舎
63	みんな生きていたい	今井幸彦	萌文社
64	3.11あの日を忘れない／1	石塚夢見	秋田書店
65	3.11あの日を忘れない／2	くりた陸	秋田書店
66	3.11あの日を忘れない／3	ごとう和	秋田書店
67	3.11あの日を忘れない／4	高瀬由香	秋田書店
68	3.11あの日を忘れない／5	あしだかおる	秋田書店
69	「地震予知」にだまされるな!	小林道正	明石書店
70	3・11を超えて	河北新報社	無明舎出版
71	生存者	根岸康雄	双葉社
72	あのとき、大川小学校で何が起きたのか	池上正樹	青志社
73	さかな記者が見た大震災石巻讃歌	高成田享	講談社
74	言葉に何ができるのか	佐野真一	徳間書店
75	沈黙の海	菊田郁	潮出版社
76	小説・震災後	福井晴敏	小学館
77	天災人災格言集	平井敬也	興山舎
78	大地震にそなえる自分と大切な人を守る方法	渡辺実	中経出版
79	みんなで考える図書館の地震対策 = Earthquake Disaster Management in Libraries	日本図書館協会	日本図書館協会
80	防災・災害対応の本質がわかる本	二宮洸三	オーム社
81	災害からみる防災・減災Q&A	藤田嘉美	オーム社
82	原発事故・全町避難大熊町学校再生への挑戦	武内敏英	かもがわ出版
83	復興は現場から動き出す	上昌広	東洋経済新報社
84	復興に命をかける	村井嘉浩	PHP研究所
85	悲しみを乗り越えて共に歩もう	西村一郎	合同出版
86	東日本大震災スーパー復興案	町田守	文芸社
87	てんつく怒髪	落合恵子	岩波書店
88	ガールズ1000人のリアル震災体験	魔法のiらんど	アスキー・メディアワークス
89	災害時ケータイ&ネット活用BOOK	西田宗千佳	朝日新聞出版
90	今日もフツーにごはんを食べる	枝元なほみ	芸術新聞社
91	福島空の下で	佐藤幸子 農業	創森社
92	福島原発事故はなぜ起きたか	井野博満	藤原書店
93	福島原発事故と放射能Q&A	歴史教育者協議会	平和文化
94	福島原発で何が起きたか	田中三彦	岩波書店
95	日本人はなぜ大災害を受け止めることができるのか	大石久和	海竜社
96	ホテルよ、福島にふたたび	阿部宣男	アспект
97	これでわかるからだのなかの放射能	安斎育郎	合同出版
98	放射能汚染から命を守る最強の知恵	阿部一理	コスモトゥーワン
99	プロメテウスの罠／4(徹底究明! 福島原発事故の裏側)	朝日新聞社	学研パブリッシング
100	プロメテウスの罠／3(福島原発事故、新たな真実)	岩崎賢一	学研パブリッシング

Bセット

No	タイトル(巻次/版)	著 者	出版者
101	プロメテウスの罠／2(検証! 福島原発事故の真実)	朝日新聞社	学研パブリッシング
102	プロメテウスの罠	朝日新聞社	学研パブリッシング
103	基本を知る放射能と放射線	藤高和信	誠文堂新光社
104	死の淵を見た男	門田隆将	PHP 研究所
105	女たちの3・11	坂田雅子	オフィスエム
106	ドイツに学ぶ地域からのエネルギー転換	寺西俊一	家の光協会
107	原発はなぜ日本にふさわしくないのか	竹田恒泰	小学館
108	原発にしがみついた人びとの群れ	小松公生	新日本出版社
109	「節電女子」の野菜レシピ!	矢野さくの	アスコム
110	終りのない惨劇	ミシェル・フェルネクス	緑風出版
111	原発はやっぱり割に合わない	大島堅一	東洋経済新報社
112	ある歌人の「脱原発」二十余年の手記から	今全楽	栄光出版社
113	IT時代の震災と核被害	編集部	インプレスジャパン
114	エネルギーと放射線の授業	千葉保	太郎次郎社エディタス
115	原発と震災	石橋克彦	岩波書店
116	いまこそ私は原発に反対します。	佐々木譲	平凡社
117	日本のエネルギー、これからどうすればいいの?	小出裕章	平凡社
118	大停電(ブラックアウト)を回避せよ!	夏目幸明	PHP 研究所
119	原発裁判	桜井淳	潮出版社
120	それでも日本は原発を止められない	中野剛志	産経新聞出版
121	Japanレポート3.11	Brandner Judith	未知谷
122	日本の原発、どこで間違えたのか	内橋克人	朝日新聞出版
123	奇跡の生還	上部和馬	コスモトゥーワン
124	災害ボランティア・ブック	平凡社	平凡社
125	東日本大震災復興への提言	風見正三	東京大学出版会
126	被災、石巻五十日。	皆川治	国書刊行会
127	私は、あなたを忘れない	小田豊二	麗澤大学出版会
128	まげねっちゃん	まげねっちゃんプロジェ	青志社
129	野崎洋光のおいしい節電レシピ	野崎洋光	東洋経済新報社
130	震災の石巻 一再生への道	創風社	創風社
131	ポスト3・11の子育てマニュアル	富永良喜	講談社
132	「つなみ」の子どもたち	森健	文藝春秋
133	海と、がれきと、ボールと、絆。= sea, rubble, balls and Kizuna.	スタンダード編集部	講談社
134	子どもたちの未来を創るエネルギー	田中優	子どもの未来社
135	図解知らないではすまされない、エネルギーの話	澤昭裕	ワック
136	原発一揆	針谷勉	サイゾー
137	原発と憲法9条	小出裕章	遊絲社
138	いま福島で考える	桜井勝延	桜井書店
139	明日へ	日本放送協会	NHK 出版
140	希望	乙武洋匡	講談社
141	のこされたあなたへ	一条真也	佼成出版社
142	啓け!	岩田やすてる	コスモの本
143	待ちつづける動物たち	太田康介	飛鳥新社
144	ラジオがつないだ命	鈴木孝也	河北新報出版センター
145	震災の石巻 一そこから	創風社	創風社
146	石巻赤十字病院の100日間	由井りょう子	小学館
147	がんばっぺし! ペしぺしぺし!	戸羽太	大和出版
148	被災者に寄りそう医療	稲光宏子	新日本出版社
149	子どもたちの3.11	Create Media	学事出版
150	モアイの絆 = Lazo que une el Moai		言視舎



Cセット

No	タイトル(巻次/版)	著 者	出版者
1	いのちを守る	佐藤仁	へるす出版
2	3・11と私	石牟礼道子	藤原書店
3	東日本大震災から学ぶ「津波にも負けず」	森田武	近代消防社
4	あれからの日々を数えて	大野太輔	大月書店
5	活断層とどう向き合うか	常田賢一	理工図書
6	慈悲の怒り	上田紀行	朝日新聞出版
7	グリーフケア入門	山本佳世子	勁草書房
8	3・11後に心のフタが壊れてしまった人たち	堀之内高久	産経新聞出版
9	発達障害児者の防災ハンドブック	新井英靖	クリエイツかもがわ
10	「五強」防災立国論	佐藤信秋	産経新聞出版
11	これだけは知っておきたい原発事故と放射能の基礎知識	関根一昭	平和文化
12	原発事故緊急対策マニュアル	日本科学者会議	合同出版
13	脱原発・再生可能エネルギーとふるさと再生	村田武	筑波書房
14	原発・放射能図解データ	野口邦和	大月書店
15	新エネルギー	大和総研	アスキー・メディアワークス
16	3.11 絆のメッセージ	亀松太郎	東京書店
17	日本人は原発とどうつきあうべきか	田原総一郎	PHP 研究所
18	聞き書き震災体験	高倉浩樹	新泉社
19	それでも彼女は生きていく	山川徹	双葉社
20	福島県民23人の声	武田悦江	歴史春秋出版
21	津波からの生還	三陸河北新報社	旬報社
22	東日本大震災を生き抜く	鈴子陽一	つり人社
23	ボランティア僧侶	藤丸智雄	同文館出版
24	石巻・にゃんこ島の奇跡	石丸かずみ	アспект
25	語り継ぎたい。命の尊さ/新版	住田功一	学びリンク
26	心のおくりびと東日本大震災復元納棺師	今西乃子	金の星社
27	災害支援と地域づくり	京都民医連中央病院	せせらぎ出版
28	震災1年全記録	朝日新聞社	朝日新聞出版
29	東日本大震災		読売新聞東京本社
30	読売新聞記者が見つめた東日本大震災300日の記録	*	読売新聞東京本社
31	復活への記憶東北ふるさとのアルバム	マガジンハウス	マガジンハウス
32	東日本大震災原発事故ふくしま1年の記録	福島民報社	福島民報社
33	東日本大震災消防レスキュー写真で見る88日間の活動全記録		イカロス出版
34	東日本大震災		読売新聞東京本社
35	東日本大震災茨城全記録		茨城新聞社
36	東日本大震災 2011.3.11 特別報道写真集 1カ月の全記録		京都新聞出版センター
37	天皇皇后両陛下被災地の人々との心の対話/第2版	小学館	小学館
38	FUKUSHIMA×フクシマ×福島	郡山総一郎	新日本出版社
39	みやぎの海辺思い出の風景		河北新報社
40	M9.0東日本大震災ふくしまの30日	福島民報社	福島民報社
41	気仙沼に消えた姉を追って	生島淳	文藝春秋
42	詩の礫	和合亮一	徳間書店
43	絶望の隣は希望です!	やなせたかし	小学館
44	非常時のことば	高橋源一郎	朝日新聞出版
45	あれから	俵万智	今人舎
46	ドキュメント震災三十一文字	日本放送協会	NHK 出版
47	つなみ風花胡桃の花穂	佐藤フミ子	凱風社
48	希望の木	新井満	大和出版
49	果てなき荒野を越えて	高橋佳子	三宝出版
50	それでも三月は、また = March Was Made of Yarn	谷川俊太郎	講談社

C セット

No	タイトル (巻次/版)	著 者	出版者
51	海は憎まず	穂高健一	日新報道
52	3・11万葉集復活の塔 = March 11 Man'yoshu FUKUSHIMA "Tower of the Resurrection"	彦坂尚嘉	彩流社
53	がれきの中で本当にあったこと	産業経済新聞社	産経新聞出版
54	惑星(ほし)の祈り	久野わか	女子パウロ会
55	東日本大震災緊急災害対策本部の90日	小滝晃	ぎょうせい
56	あなたの住まいの震災対策Q&A	不動産コンサル21研究会	清文社
57	3.11 (さんてんいちいち) 被災地の証言	情報支援プロポプラットフォーム	インプレスジャパン
58	正しい被曝医療Q&A50	鈴木元	診断と治療社
59	フクシマから学ぶ原発・放射能/普及版	安齋育郎	かもがわ出版
60	目で見て分かる! 放射能と原発	澤田哲生	双葉社
61	安齋育郎先生の原発・放射能教室/第3巻(放射能からいのちを守るために)	安齋育郎	新日本出版社
62	安齋育郎先生の原発・放射能教室/第1巻(放射線と放射能を学ぼう)	安齋育郎	新日本出版社
63	いま原発で何が起きているのか		京都新聞出版センター
64	いま原発で何が起きているのか		河北新報出版センター
65	いま原発で何が起きているのか		北海道新聞社
66	子ども白書 2011	日本子どもを守る会	草土文化
67	希望の桜。3.11 東日本大震災	鴨志田孝一	講談社
68	仮設のトリセツ	岩佐明彦	主婦の友社
69	フリスビー犬、被災地をゆく	石川梵	飛鳥新社
70	生きてやろうじゃないの!	武澤順子	青志社
71	津波、命がけの絆	于強	泰文堂
72	東日本大震災の科学	小原一成	東京大学出版会
73	ふくしまに生きるふくしまを守る	福島県警察本部	福島県警察互助会
74	大学の現場で震災を考える	三野博司	かもがわ出版
75	忘れない。	西條剛央	大和書房
76	ふたたび、ここから	池上正樹	ポプラ社
77	女たちが動く	やはたえつこ	生活思想社
78	「いのち」を伝える学校講話	渡辺正樹	教育開発研究所
79	チェルノブイリから学んだお母さんのための放射能対策BOOK	野呂美加	学陽書房
80	ボクが東電前に立ったわけ	園良太	三一書房
81	放射能を背負って	山岡淳一郎	朝日新聞出版
82	フクシマの王子さま	椎根和	芸術新聞社
83	3・11 福島から東京へ	東京災害支援ネット	山吹書店
84	「内部被ばく」こうすれば防げる!	漢人明子	文藝春秋
85	放射線災害と向き合って	福島県立医科大学附属病院	ライフサイエンス出版
86	放射能地震津波正しく怖がる100知識	河田恵昭	集英社
87	闘う市長	桜井勝延	徳間書店
88	どう身を守る? 放射能汚染	渡辺雄二	緑風出版
89	3・11 複合被災	外岡秀俊	岩波書店
90	僕はしゃべるためにここへ来た	笠井信輔	産経新聞出版
91	原発列島/増補版	向中野義雄	大月書店
92	震災から一年後の被災地レポート	早川忠孝	PHPパブリッシング
93	ハッピーバースデイ3.11	並河進	飛鳥新社
94	あきらめない街、石巻その力に俺たちはなる	佐々木亨	ベースボール・マガジン社
95	ともしび	シュープレス株式会社	小学館
96	3.11 以後を生きるヒント	三好亜矢子	新評論
97	ルポ原発難民	栗野仁雄	潮出版社
98	封印された震災死その「真相」	吉田典史	世界文化社
99	瓦礫にあらず	葉上太郎	岩波書店
100	被災地を歩きながら考えたこと	五十嵐太郎	みすず書房



Cセット

No	タイトル(巻次/版)	著 者	出版者
101	東北の震災と想像力	鷲田清一	講談社
102	日本人は知らない「地震予知」の正体	Geller Robert J	双葉社
103	だけど、くじけない	長倉洋海と東北のこどもたち	NHK 出版
104	3・11から考える「家族」	真鍋弘樹	岩波書店
105	おもかげ復元師	笹原留似子	ポプラ社
106	何が来たって驚かぬえ!	有田芳生	駿河台出版社
107	証言記録東日本大震災	日本放送協会	NHK 出版
108	津波の夜に	大西暢夫	小学館
109	大江戸災害ものがたり	酒井茂之	明治書院
110	福島原発事故をめぐる	山本義隆	みすず書房
111	これだけ知っていれば安心! 放射能と原発の疑問 50	伊藤公紀	日本評論社
112	原発のない世界へ	小出裕章	筑摩書房
113	チェルノブイリの祈り	Aleksievich Svetlana	岩波書店
114	東京の3・11	都政新報社	都政新報社
115	チェルノブイリ原発事故がもたらしたこれだけの人体被害 = Health Effects of Chernobyl	松崎道幸	合同出版
116	原発ゼロ	安斎育郎	かもがわ出版
117	大学生がえがく脱原発の未来マニュアル	フェリス学院大学エコキャンパス研究会	東京新聞
118	福島は訴える	福島県九条の会	かもがわ出版
119	原発テレビの荒野	加藤久晴	大月書店
120	なぜ即時原発廃止なのか	西尾漠	緑風出版
121	原発問題に「無関心」なあなたへ。	田中優	キラジェンヌ
122	高校生からわかる原子力	池上彰	ホーム社
123	考えてみようよ原発のこと/改訂版	原子力資料情報室	原子力資料情報室
124	備える! 3・11から	中日新聞社	中日新聞社
125	しおかぜ荘の震災	木村航	双葉社
126	3.11を心に刻んで	岩波書店	岩波書店
127	駐在記者発大槌町震災からの365日	東野真和	岩波書店
128	いま注意すべき大地震	木村政昭	青春出版社
129	東北の生命力	瀬戸山玄	岩波書店
130	人が死なない防災	片田敏孝	集英社
131	学校防災最前線	阪根健二	教育開発研究所
132	震災から身を守る52の方法	レスキューナウ	アスコム
133	待ったナシの防災習慣	橋本真希	文芸社
134	あなたは、次の災害で生き残れますか?	半田亜季子	近代消防社
135	東日本大震災と社会教育	石井山竜平	国土社
136	震災復興と自治	増田寛也	東京市政調査会
137	東日本大震災からの復興と教育方法		図書文化社
138	大震災を生き抜くための食事学	石川伸一	主婦の友インフォス情報社
139	東日本大震災と学校教育	笹川正	かもがわ出版
140	地震大国の防災を考える	目黒公郎	自由国民社
141	地震停電放射能みんなで生き抜く防災術	小学館	小学館
142	世界が日本のことを考えている	ウ・ブニャ・サラ	太郎次郎社エディタス
143	3.11からの復興と日本経済再建の構想	藤田実	かもがわ出版
144	必ず復興する日本のシナリオ	長谷川慶太郎	ポプラ社
145	東日本大震災からの復興覚書	伊藤滋	万来舎
146	原発依存と地球温暖化論の策略	中野洋一	法律文化社
147	防災白書 平成24年版	内閣府 編集	日経印刷
148	防災白書 平成23年版	内閣府 編集	佐伯印刷
149	災害 ーその時学校は	日本安全教育学会	ぎょうせい
150	被災地の聞き書き101	東京財団	東京財団

Dセット

No	タイトル(巻次/版)	著 者	出版者
1	PRAY FOR JAPAN	prayforjapan.jp (編)	講談社
2	「あの日」からぼくが考えている「正しさ」について	高橋源一郎	河出書房新社
3	メディアと原発の不都合な真実	上杉隆	技術評論社
4	原子力報道	柴田鉄治	東京電機大学出版局
5	原発とメディア	上丸洋一	朝日新聞出版
6	3・11 以前：美しい東北を永遠に残そう	「3・11 以前」写真集プロジェクト事務局 (編)	小学館
7	ファインダー越しの3・11	安田菜津紀	原書房
8	朝日新聞縮刷版 東日本大震災	朝日新聞社	朝日新聞社
9	Tsunami 3・11 (落丁有)	豊田直巳	第三書館
10	いま原発で何が起きているのか：原発震災の100日		中国新聞社
11	南三陸から〈vol.2〉2011.9.11～2012.3.11	佐藤信一	ADK 南三陸町復興支援プロジェクト
12	Tsunami 3・11 / part2	第三書館編集部 (編)	第三書館
13	3/11 キッズフォトジャーナル	3/11 Kids Photo Journal (編)	講談社
14	再び、立ち上がる！	河北新報社	筑摩書房
15	南三陸日記	三浦英之	朝日新聞出版
16	闘う東北	小寺陽一郎	朝日新聞出版
17	女川佐々木写真館	鈴木麻弓	一葉社
18	南三陸から = PHOTO LETTER FROM MINAMI SANRIKU	佐藤信一	ADK 南三陸町復興支援プロジェクト
19	TSUNAMI 3・11 / PART3 (東日本大震災「被災一周年」記録写真集)	第三書館編集部 (編)	第三書館
20	災害弱者と情報弱者	田中幹人	筑摩書房
21	原発報道とメディア	武田徹	講談社
22	鎮魂と抗い	山本宗補	彩流社
23	検証 東電テレビ会議	朝日新聞社	朝日新聞出版
24	ドキュメント テレビは原発事故をどう伝えたのか	伊藤守	平凡社
25	原発崩壊	樋口健二	合同出版
26	Courrier Japon (クーリエ ジャパン)		講談社
27	原爆と原発ホビの聖なる預言	小原田泰久	学研パブリッシング
28	暴走する原発	広河隆一	小学館
29	こうして原発被害は広がった	Read Piers Paul	文藝春秋
30	原発アウトロー 青春白書	久田将義	ミリオン出版
31	「脱原発」成長論	金子勝	筑摩書房
32	日本一わかりやすいエネルギー問題の教科書	水野倫之	講談社
33	孫正義のエネルギー革命	孫正義	PHP 研究所
34	原発と権力	山岡淳一郎	筑摩書房
35	原発のどこが危険か／新版	桜井淳	朝日新聞出版
36	原発労働記	堀江邦夫	講談社
37	みんなの原子力発電	青山智樹	総合科学出版
38	図説危険な話／復刻	ふゅーじょんぶろだくと	ふゅーじょんぶろだくと
39	原発崩壊：想定されていた福島原発事故／増補版	明石昇次郎	金曜日
40	福島原発の真実	佐藤栄佐久	平凡社
41	原発と、危ない日本 (にっぽん) 4つの問題	武田邦彦	大和書房
42	原発と陰謀	池田整治	講談社
43	原発のない世界のつくりかた	「脱原発世界会議」実行委員会 (編)	合同出版
44	海江田ノート	海江田万里	講談社
45	脱原発の市民戦略	上岡直見	緑風出版
46	原発事故と食品安全	遠藤保雄	農林統計出版
47	原発を拒み続けた和歌山の記録	汐見文隆	寿郎社
48	証言 細野豪志	細野豪志	講談社
49	ゴーマニズム宣言 SPECIAL 脱原発論	小林よしのり	小学館
50	No 原発, ONE LOVE !	星川一星 aka いしだ壱成	青志社



Dセット

No	タイトル(巻次/版)	著 者	出版者
51	原発と拳銃	杉浦昭嘉	祥伝社
52	3.11の記録／原発事故篇	「3.11の記録」刊行委員会	日外アソシエーツ
53	わたしはゼツタイに負けない!!	石橋孝子	柴田書店
54	274人のアンケートから考えた大震災・放射能汚染3.11以後の備える・守る家族のための防災BOOK	武田邦彦、細川顕司(共著)	じゃこめてい出版
55	フクシマ／ヒロシマランニング	前島幹雄	彩流社
56	3.11の衝撃震災・原発特報部は伝えた	東京新聞(編)	東京新聞
57	クロニクル Fukushima	大友良英	青土社
58	ノーモア・フクシマ世紀の核惨事	浦上深作	あかね図書販売
59	@Fukushima	高田昌幸	産学社
60	チェルノブイリの菜の花畑から	川田昌東	創森社
61	福島原発事故放射線の不安や疑問に答えます	田邊裕	文芸社
62	福島核災棄民	若松丈太郎	コールサック社
63	放射能を基本から知るためのキーワード84	Biddle Wayne	河出書房新社
64	放射線被ばくから子どもたちを守る	松井英介	旬報社
65	サイレントウォー	今中哲二	講談社
66	肥田舜太郎が語るいま、どうしても伝えておきたいこと	肥田舜太郎	日本評論社
67	放射能生活の注意事項	船瀬俊介	三五館
68	自分と子どもを放射能から守るには	Babenco Vladimir	世界文化社
69	手にとるように環境問題がわかる本	オフィステキスト	かんき出版
70	放射線・放射能がよく分かる本	多田順一郎	オーム社
71	どうする? 放射能ごみ／増補改訂新版	西尾漠	緑風出版
72	放射能汚染の現実を超えて	小出裕章	河出書房新社
73	カウントダウン・メルトダウン(上)	船橋洋一	文藝春秋
74	カウントダウン・メルトダウン(下)	船橋洋一	文藝春秋
75	おしえて! もんじゅ君	大島堅一	平凡社
76	No NUKES 2012	坂本龍一	小学館スクウェア
77	官邸の100時間	木村英昭	岩波書店
78	核の力で平和はつぐれない	市民意見広告運動(編)	合同出版
79	息子は死んだ: 嶋橋原発被曝労災認定までの記録	嶋橋美智子	新読書社
80	ゴン太ごめんね、もう大丈夫だよ!	山路徹と救出チーム(編)	光文社
81	とんがりあたまのゴン太	仲本剛	光文社
82	東日本大震災語られなかった国交省の記録	道下弘子	JDC出版
83	東日本大震災を読む!	長谷川慶太郎	李白社
84	地域のレジリエンス	トーマス・エルムクヴィスト、香坂玲(編)	清水弘文堂書房
85	大災害に立ち向かう世界と日本	「大災害と国際協力」研究会 著	佐伯印刷
86	大震災後の社会学	遠藤薫	講談社
87	3.11クライシス!	佐藤優	マガジンハウス
88	大津波と原発	内田樹	朝日新聞出版
89	巨大地震リアルシミュレーション	久保範明	永岡書店
90	津波の後の第一講	鵜飼哲	岩波書店
91	東日本大震災と知の役割	片谷教孝	勁草書房
92	「心の財」はこわされない	佐藤千昌	潮出版社
93	ふたつの震災	西岡研介、松本創	講談社
94	消防団の闘い	日本消防協会	近代消防社
95	3.11を読む	松岡正剛	平凡社
96	歴史としての東日本大震災	岩本由輝	刀水書房
97	巨大津波: その時ひとはどう動いたか	NHK スペシャル取材班	岩波書店
98	東日本大震災と日本	関西学院大学災害復興制度研究所、高麗大学校日本研究センター(共編)	関西学院大学出版会
99	語り継ぐいいおか津波	光と風キャンペーン実行委員会(編)	三恵社
100	検証! 首都直下地震	木村政昭	技術評論社

Dセット

No	タイトル(巻次/版)	著 者	出版者
101	連鎖する大地震	遠田晋次	岩波書店
102	命のバトン 津波を生きぬいた奇跡の牛の物語	堀米薫	佼成出版社
103	ナガサレール イエタテール	ニコ ニコルソン	太田出版
104	震災キャラバン	高嶋哲夫	集英社
105	誰かのためにできること	山本明文	商業界
106	YELL! : 東日本大震災チャリティーブック : がんばろう日本!	アスコム(編)	アスコム
107	同伴避難	児玉小枝	日本出版社
108	震災が教えてくれたこと	今野公美子	朝日学生新聞社
109	災害ストレスから子どもの心を守る本	内海裕美	河出書房新社
110	原発推進者の無念	北村俊郎	平凡社
111	石が叫ぶ福音 : 喪失と汚染の大地から	林尚志	岩波書店
112	「脇役」たちがつないだ震災医療	辰濃哲郎	医業経済社
113	悲しんでいい	高木慶子	NHK出版
114	ボランティアナースが綴る東日本大震災	全国訪問ボランティアナースの会キャンナス(編)	三省堂
115	巨大地震から子どもを守る50の方法	国崎信江	ブロンズ新社
116	海の見える病院 語れなかった「雄勝」の真実	辰濃哲郎	医業経済社
117	ナース発東日本大震災レポート	日本看護協会出版会編集部(編)	日本看護協会
118	東日本大震災石巻災害医療の全記録	石井正	講談社
119	石巻赤十字病院、気仙沼市立病院、東北大学病院が救った命	石丸かずみ	アスペクト
120	原子力災害からいのちを守る科学	小谷正博	岩波書店
121	危機突破リーダー	仲摩徹彌	草思社
122	グローバル社会のコミュニティ防災	吉富志津代	大阪大学出版会
123	大震災サバイバルハンドブック	くぼうちふゆき	アスペクト
124	これ1冊でできる! わが家の防災マニュアル	国崎信江	明治書院
125	震災のときあったらいいもの手帖	チーム住まいと暮らし	住まいの学校
126	生活防衛ハンドブック : 食品編	小若順一	講談社
127	漂流被災者 : 「人間復興」のための提言	山中茂樹	河出書房新社
128	日本人はなぜ震災にへこたれないのか	関裕二	PHP 研究所
129	復興の祈り : 東北地方太平洋沖地震被災者応援メッセージ集	復興の祈り編集部(編)	国民みらい出版
130	復興への一年 : 3.11 大震災・原発災害の記録2	橋本紘二	農村漁村文化協会
131	復興を取り戻す : 発信する東北の女たち	萩原久美子、皆川満寿美、大沢真理(編)	岩波書店
132	いま「原発」「復興」とどう向き合えばいいのか	村井嘉浩	PHP 研究所
133	「3.11」からの再生 : 三陸の港町・漁村の価値と可能性	河村哲二、岡本哲志、吉野馨子(編著)	御茶の水書房
134	震災・ガレキを越えてカマヤんの夢畑	ありむら潜	明石書店
135	東日本大震災と被災者支援活動	愛知東邦大学地域創造研究所(編)	唯学書房
136	検証東日本大震災の流言・デマ	荻上チキ	光文社
137	東日本大震災ぎふ支援の記録	岐阜新聞社(編)	岐阜新聞社
138	東日本大震災被災者とボランティア声のアルバム100	東京ボランティア市民活動センター	東京都社会福祉協議会東京ボランティア・市民活動センター
139	3・11に問われて : ひとびとの経験をめぐる考察	葉上太郎(ほか著)	岩波書店
140	3・11 慟哭の記録	金菱清	新曜社
141	大学生、ボランティアの襪をつなぐ	神奈川大学(編)	御茶の水書房
142	シンヂ、僕はどこに行ったらええんや	喜国雅彦	双葉社
143	震災日録 : 記憶を記録する	森まゆみ	岩波書店
144	大震災でわかった学校の大問題	大森直樹	小学館
145	自衛隊かく闘えり	井上和彦	双葉社
146	〈核発電(ゲンバツ)〉を問う : 3・11 後の平和学	戸田清	法律文化社
147	災害とロボット = Disaster and Robot	井上猛雄	オーム社
148	フラガール3.11 : つながる絆	清水一利	講談社
149	道化師が動いた! : テントサーカスのはじまり、はじまり。	大棟耕介	生産性出版
150	東日本大震災海上自衛隊災害派遣の記録	(世界の艦船2011年12月号増刊)	海人社



ご参加いただいた図書館の皆様へ

気仙沼図書館

館長 吉田 睦美 様

「笑顔を届けるプロジェクト」の最後の活動として、プロジェクトで収集した貴重な震災関連図書1,426冊を3月に当館にご寄贈いただき、「笑顔文庫」と命名しました。専用の書架と笑顔マークの図書ラベルも寄贈いただき、震災という重いテーマの本ですが、明るく利用しやすいコーナーになりました。児童・生徒の皆さんからの被災地への応援メッセージカード1,634枚も寄贈いただき、フォルダーケースで展示しており、利用者が興味深くご覧になっています。東京新宿ロータリークラブ様からも震災関連の新刊図書201冊をご寄贈いただき、震災直後に出版され、今では入手できない貴重な図書とともにより充実した文庫となりました。

今後、震災を風化させずに次世代へと記憶をつなぎ、これからの防災教育に役立つ資料として、有効活用してまいります。「笑顔を届けるプロジェクト」は、全国からの温かい声援をのせ、気仙沼市民に本とともに笑顔を届けてくださいました。改めて、キハラ株式会社様はじめ、関係者の皆様に御礼申し上げます。

公益社団法人全国学校図書館協議会

設楽 敬一 様

長きにわたりご尽力を続けた「笑顔を届けるプロジェクト in school library」に心より敬意を表します。併せて、当会の復興支援活動「学校図書館げんきプロジェクト」に学校図書館管理ソフト「ELISE-Egg 3 Kizuna」とラベルを100セットご寄贈いただき感謝いたします。

当時、被災した学校は、寄贈図書の整理に困惑していました。その折に、学校図書館管理ソフトとラベルが届き、多くの学校から感謝の言葉が寄せられました。昨年から今年にかけて震災の記録を後世に伝える出版が増えています。更に、日々の災害に備えた防災教育の重要性は周知の事実となっています。

「笑顔を届けるプロジェクト in school library」の活動を通して、震災の記憶を風化させることなく、後世に伝える貴重な資料を積み重ねることができたものと確信しています。

日本出版クラブ

事業担当 杉山 知隆 様

2011年3月11日に発生した東日本大震災の直後、出版界が一丸となって震災復興をと、出版関連団体により〈大震災〉出版対策本部が発足しました。

その活動のひとつとして、2年後の夏、被災地の惨状や人々の苦悩を忘れぬようにと、震災後に地震災害や原発事故をテーマに、全国の出版社や新聞社が発行した約1400点の出版物を展示する「3.11以降の全出版記録『本の力』展」がキハラ株式会社の協力により日本出版クラブで開催されました。会期中に訪れた多くの来場者からは、「震災関連本を一堂に集めたライブラリーは貴重だ、今後のためにも、より多くの人が閲覧できるように常設展示ができないか」との要望が連日寄せられました。その声を受けて、「自社の創立記念事業として引継ぎ、震災関連書籍を全国公共図書館・大学図書館に巡回展示を」と木原祐輔会長よりお申し出いただき、やがてその活動は小・中・高等学校図書館を巡る「笑顔を届けるプロジェクト in school library」へと発展し、以来弛まぬ全国巡回を続けられました。

読者から寄せられたメッセージカードを拝読させていただき、3.11を忘れまい！と出版界が送り出した渾身の出版物、その「本の力」を余すことなく活かし、日本全国に伝え続けて下さったこのプロジェクトにこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

東京新宿ロータリークラブ

補助金委員長 大谷 昌義 様

東日本大震災から10年が経過し、街は再建され高速道路の開通等インフラも整備され復興が進んでいるが、風化が進んでいるのも事実である。一方で、震災にかかわる新しい事実も解明されており、被災地ではもちろんのこと、震災の記録を伝承していくことは重要なテーマとなっている。

今回、復興支援の一環として震災の事実が記載された書籍という長期保存ができる有形のものを活用することにより、事実、教訓等の記録を残し、かつ防災についての関心が浸透してきた昨今では、今後にも有効活用してもらいたいと考える。

東日本大震災に関する書籍を被災地であり、復興のシンボルとして建設された、市民とともに活動している気仙沼図書館に少しでも復興の力になればと思います、笑顔文庫の新規購入書籍201冊を寄贈させていただいた。気仙沼図書館を訪れる多くの方にご利用いただきたい。



編集後記

笑顔を届けるプロジェクト in school library 震災関連図書 開催を終えて

忘れがたい東日本大震災から10年という節目の年を迎えました。テレビを通して見た、まるで生き物のように黒々とした大きな波が町をのみ込みすべてを破壊してゆく恐ろしいさまを今も鮮明に思い出します。

その後も日本各地で台風による風水害等、自然災害に見舞われてきました。そんな中「笑顔を届けるプロジェクト in school library」は全国の小中高校で展開されてきました。

地震大国といわれる島国日本に住む私たちは、自然災害に備えるために何を知るべきでしょうか。

プロジェクトを通じてそれまで持っていた情報をはるかに超える実情を知ることとなった小中高生の驚愕。そして、その心にあふれ出る思いやりをメッセージカードを通して感じるができます。自分からは遠い地域の出来事だと考えていたことが、いつわが身にふりかかるか、豊かな想像力も発揮します。それぞれ同世代の被災者に真摯に向き合い「ひとりじゃないよ」と心の中で呼びかけています。

人と人との別れだけではなく共に暮らしてきたペットとの別れもありました。高齢者の苦しみ、届きにくい小さい子供たちの声をどう拾いあげるか、この展示会を通してさまざまなことを知ることができたのです。

災害をなくすことは出来ません。いつかやってくるであろう災害、その時は容赦なくそれまでの日常が失われ、愛しい人との別れもあるのです。だからこそ、その時どう行動するか、日頃から意識することの重要さは言うまでもありません。避難訓練等を通じて学校で学ぶことが大切です。今や自然災害に加え感染症の蔓延という地球規模の災害さえ発生しています。プロジェクトそのものはひとつの区切りを迎えますが、「止めることができないが、備えることはできる災害」についてこれからも若い情熱と実行力を信じたいと思います。

齋藤 紀子



主催 笑顔プロジェクト製作委員会

協力 <大震災>出版対策本部

日本通運株式会社 千葉支店

発行：2021年7月

ISBN 978-4-87377-013-0

お問い合わせ先：キハラ株式会社 03-3292-3301

